

株主通信

第118期

2018.4.1 ~ 2018.9.30

証券コード 7105

Logisnext

三菱ロジスネクスト株式会社

世界の物流ニーズに応えるソリューションの提供を通して グループ一体でさらなる成長を目指していきます。

昨年10月、「三菱ロジスネクスト株式会社」として新たなスタートを切った当社グループの当上半期は、国内市場・海外市場の堅調な推移を背景に、売上・営業利益ともに増加しました。今後も統合前の各社の「強み」を融合し、シナジーを発揮させることで、より高次元の物流ソリューション提供を目指してまいります。



代表取締役社長
御子神 隆

当上半期の市況と業績の総括

当 上半期における世界経済は、米国の大型減税効果や欧州のユーロ安を背景とした輸出の回復などにより、先進国では引き続き堅調に推移しました。物流機器業界においては、人手不足を背景に世界的に需要拡大が続いている一方、業界内での厳しい競争環境も継続しています。

このような状況の中、当社グループは世界のお客様の物流に対するご要望に真摯にお応えし続け、一層の売上増加・収益向上に努めたことにより、国内市場においては、堅調な需要を背景にフォークリフト販売台数が伸びました。また、海外市場についても米州、欧州、アジア、中国の全エリアで販売を伸ばすことができました。

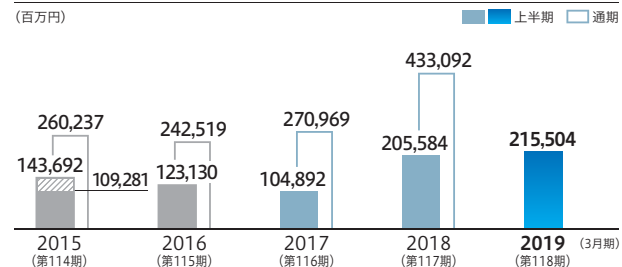
これらの結果、当上半期の連結売上高は、2,155億4百万円（前年同期比4.8%増加）となりました。また利益面については、営業利益が43億8千9百万円（前年同期比56.4%増加）、経常

利益が51億3千7百万円（同90.9%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益が25億4千3百万円（同475.0%増加）と、いずれも増益となりました。なお、のれん償却等の影響を除くと、営業利益は87億9千8百万円（同9.8%増加）、営業利益率は4.1%（同0.2ポイント増加）でした。

下半期の取組みと見通し

世 界経済は成熟国、新興国ともに堅調に推移しておりますが、米中の貿易摩擦は収束が見えない状況であり、今後の中国・アジア諸国経済への影響が強く懸念されます。また欧州においても、英国のBrexitの影響や南欧の政治リスク等、先行きの不透明な状況が続いています。日本経済は雇用環境の改善が続く中、緩やかな景気拡大傾向の継続が期待されるものの、政治情勢の不安定化や海外経済の不確実性には留意する必要があります。加えて鋼材をはじめと

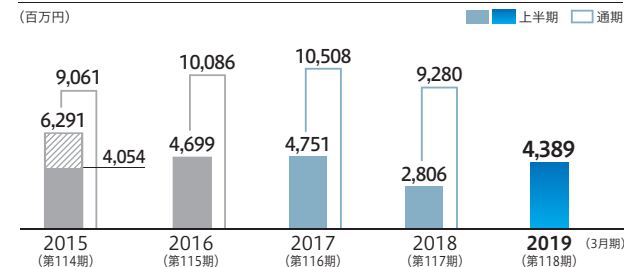
売上高



■ 第114～第115期はニチュ三菱フォークリフトのデータを掲載しています。▨ 海外連結子会社の決算期変更に伴う増加分(1～3月)

※1 2017年1月1日付でユニキャリアを完全子会社化したことに伴い、2017年3月期(第116期)1月～3月は、ニチュ三菱フォークリフトとユニキャリアを連結した数値を掲載しています。

営業利益



する原材料価格の上昇が顕著であり、資材調達コストへの影響も懸念されています。

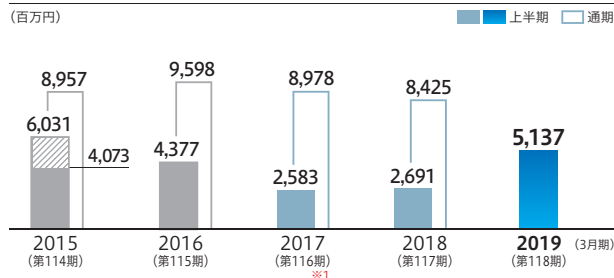
上記を踏まえて、当期の連結業績見通しは、売上高4,350億円(前連結会計年度比0.4%増収)、営業利益125億円(同34.7%増益)、経常利益110億円(同30.6%増益)、親会社株主に帰属する当期純利益60億円(同104.0%増益)を見込んでいます。

中期経営計画の達成に向けて

当 社グループでは、2016年12月に策定した中期経営計画「Perfect Integration 2020」の達成に向けて、引き続き取り組みを進めています。

昨年(2017年)10月1日付で実施した旧ユニキャリア(株)との経営統合により、日本の物流機器において様々な歴史と伝統をもつ4社が一つになり、各社が「強み」を持ち寄ったことで、現在の当社では幅広い製品ラインナップが実現しています。今後もこの強みを活かし、フォークリフトを基盤としながらも、世界の市場の変化にしっかりと対応していく考えです。近年の物流業界では人手不足を背景に「無人化・省人化」へのニーズが世界的に高まっています。このニーズに対し、当社では2017年4月に発売したレーザー誘導方式無人フォークリフト「プラッターオート」をはじめAGV/AGF(無人搬送車/

経常利益



無人フォークリフト)への注力を開始しています。今後も新たな付加価値を提供するため、同分野を一層強化していきます。

また、フォークリフトなどのハードだけでなく、AIやIoTなどの先端技術を活用した機器・システムにも今後さらに注力してまいります^{※2}。長年培ったハードの強みと先端技術を連携させていくことで、お客様や社会の課題を解決できる「物流ソリューション」を幅広く提供していこうと考えています。

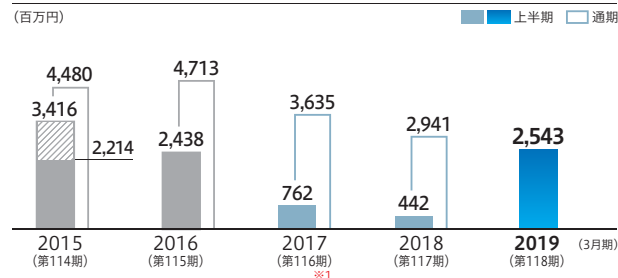
^{※2} IoT技術を活用した物流機器・システム等の製品群については、P3をご参照ください。

株主の皆様へのメッセージ

当 社は、その期の収益状況に対応し、株主各位への配当の充実と企業基盤確立のための内部留保とのバランスに配慮した利益配分を行うことを基本としています。当期の株主配当については期末配当を1株当たり11円で実施させていただく予定です。

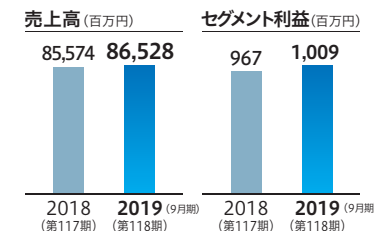
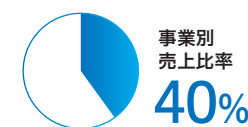
私たち三菱ロジスネクストは、これからもグループ一丸となって技術・品質・コストを徹底的に追求し、事業基盤を一層強化するとともに、全世界のお客様の要望に真摯に応えることで「世界トップクラスの総合物流機器メーカー」を目指して邁進してまいります。株主の皆様には、引き続き当社グループへの温かいご理解、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

親会社株主に帰属する四半期純利益



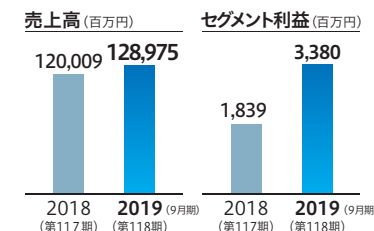
事業別業績概況

国内事業



国内事業は、堅調な需要を背景に、国内フォークリフト販売台数を伸長させたことにより、一部システム切り替えに伴う補用部品販売の伸び悩みがあったものの、売上高は865億2千8百万円(前年同期比1.1%増加)となりました。セグメント利益につきましては、資材費高騰等の影響があったものの、売上高の増加及びのれん償却等の減少により、10億9百万円(前年同期比4.4%増加)となりました。

海外事業



海外事業は、米州、欧州、アジア、中国の全域で販売を伸ばしたことにより、売上高は1,289億7千5百万円(前年同期比7.5%増加)となりました。セグメント利益につきましては、売上高の増加、のれん償却等の減少及び前年同期に中国事業における売掛金の貸倒引当金繰入額等を計上した影響により、33億8千万円(前年同期比83.7%増加)となりました。

無人搬送システム

工程間・保管作業の自動化を実現



自動倉庫

高い安全性と効率向上に貢献する



WMS(ウェアハウスマネジメントシステム)

ITを駆使し、「経験」「カン」「記憶」に頼らないトータル物流を実現



物流センターで

Focus

物流ソリューションビジネス

IoTなどの先端技術を活用し、 物流現場の自動化・ 省人化ニーズにも貢献。

港湾で

当社の強みは、フォークリフトや特殊搬送車両だけではありません。
eコマースなどの進展を背景に、人手不足の深刻化、作業者の労働環境の改善など
物流現場に求められる自動化・省力化ニーズが高まっています。
先進のIoT技術を駆使した物流機器・システムといった製品群でも、
お客様の課題に最適なソリューションを提供します。

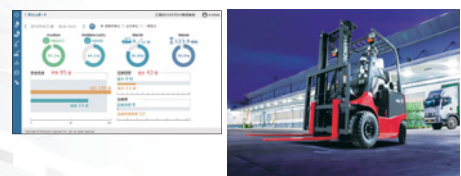
コンテナターミナル管理システム

港湾業務の効率化、信頼性の向上に



LVS(フォークリフト稼働管理システム)

車両・拠点の情報を数値化し、
物流現場を「見える化」



RTG※遠隔操作化

安全制御・現場の負担軽減に役立つ

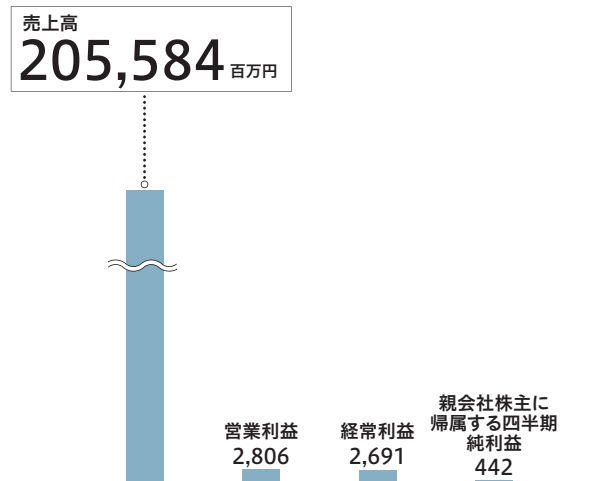


※ RTG: ラバータイヤ式ガントリークレーン

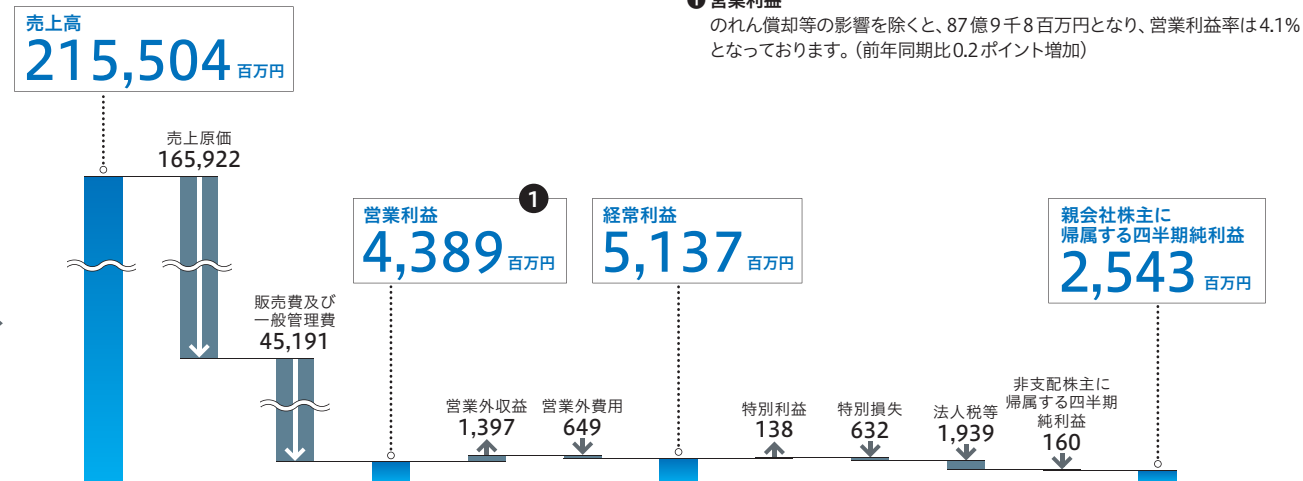
主要連結財務指標

連結損益計算書 (百万円)

前 第2四半期(累計) (2017年4月1日～2017年9月30日)



当 第2四半期(累計) (2018年4月1日～2018年9月30日)

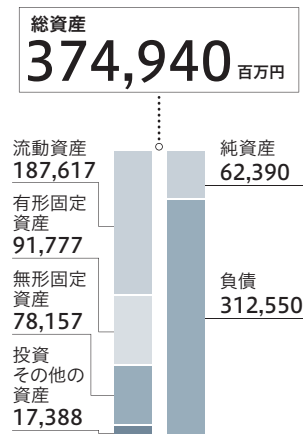


POINT

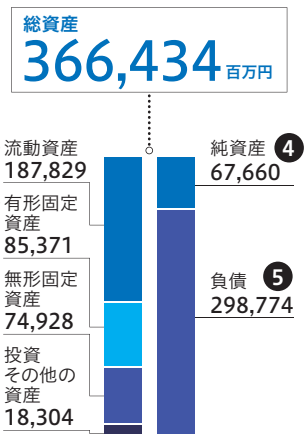
- ① 営業利益
のれん償却等の影響を除くと、87億9千8百万円となり、営業利益率は4.1%となっております。(前年同期比0.2ポイント増加)

連結貸借対照表 (百万円)

前期末 (2018年3月31日)



当 第2四半期末 (2018年9月30日)

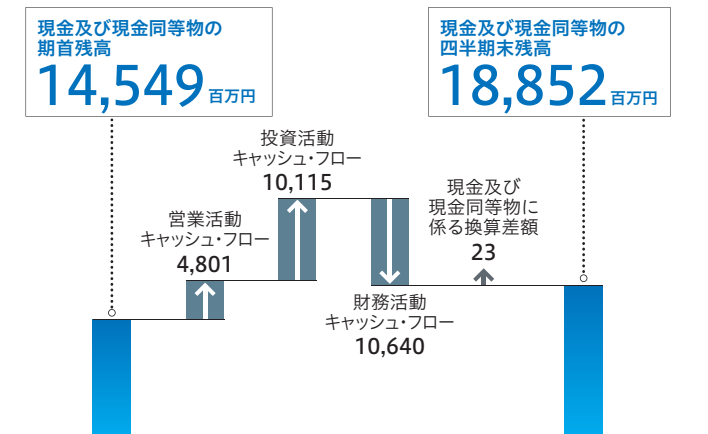


POINT

- ② 流動資産
短期貸付金の減少はありますが、たな卸資産の増加等により2億1千2百万円増加しました。
- ③ 固定資産
有形固定資産の売却及びのれんの償却等により87億1千8百万円減少しました。
- ④ 純資産
為替換算調整勘定*の増加等が主な要因となり、新株予約権及び非支配株主持分を除くと654億1千4百万円となり、前連結会計年度末より50億9千8百万円増加しました。
* 在外子会社の貸借対照表項目への円貨換算手続で生じる調整額
- ⑤ 負債
支払手形及び買掛金、借入金の減少等が主な要因となり、前連結会計年度末より137億7千6百万円減少しました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

当 第2四半期(累計) (2018年4月1日～2018年9月30日)



1 Logisnextブランドのさらなる浸透を目指し 国際物流総合展 2018 に出展



当社は2018年9月11日から14日まで、東京ビッグサイトで開催された「国際物流総合展2018」に、三菱ロジスネクストとして初めて出展しました。

“三菱ロジスネクスト、未来へ”をテーマに、物流現場が抱える現在の課題から、近い将来のトレンドとなる技術に焦点を絞り、ブースをレイアウトしました。特に「無人化技術」

コーナーでは、レーザースキャナで反射板を検出し自分の位置を把握して走行する、レーザ誘導方式AGF(無人フォークリフト)をはじめ、計4台のAGFによる実演を行いました。衝突を回避しながら滑らかに走行、停止、荷役する様子が来場者の関心を大きく集めました。

無人化技術コーナー



レーザ誘導方式AGF「PLATTER Auto」のほか、高層ラックへの自動入庫作業を可能とする「RACK FORK Auto」のデモを実施。またライダー型AGFによる有人・無人運転切り替えの実演提案を行いました。

レーザ誘導方式無人フォークリフト

PLATTER
Auto



RACK FORK
Auto
(参考出品)



ライダー型無人フォークリフト

PLATTER
Auto



※ LVS = 「Logistics Vehicle Support」の略。フォークリフトに専用の通信機器を取り付けることで、各拠点の車両データをクラウドサーバーで保存・管理できるシステム。

メインステージ



メインステージでは製品ラインナップおよび会社紹介プレゼンテーションを実施。また、現場の課題に応じた当社の様々なソリューションを映像で紹介しました。

安全用品・安全技術コーナー

フォークリフト専用ドライブレコーダー、作業者検知システムやLVS※(フォークリフト稼働管理システム)などの安全用品の展示のほか、安全啓発ビデオや安全用品体感VR映像の上映を行いました。

先進技術コーナー

短時間充電・長時間連続稼働が可能となったリチウムイオン電池搭載フォークリフトを展示。また、荷役作業中でも車体前方を確認できるフォーク前方モニターシステムの展示実演を行いました。

2 レッドドット・ デザイン賞を受賞

電気式フォークリフト「ユニキャリアTX3」

欧州・アジア・中近東・アフリカ向け専用モデルの「ユニキャリアTX3」が2018年の「レッドドット・デザイン賞 (Red Dot Award)」を受賞しました。

今回は59の国と地域から6,300点以上の応募があり、専門家40人によって審査が行われ、「革新性」「機能性」「人間工学」「耐久性」など、九つの基準のもと選定されました。

「ユニキャリアTX3」は独自の「ProVision」コンセプトにより、人間工学的な観点から全方位に渡る最適可視性と作業性の向上を実現。審査員からは「デザインと機能の高い次元での融合、とりわけドライバーからの視認性の高さとそれによる安全性の高さ」において高い評価を受けました。極めて正確かつ安全な荷役が可能となっただけでなく、車内空間が広く、ドライバーは快適に作業を行うことができるのが特長です。



授賞式の様子



reddot award 2018
winner



会社情報

会社概要 (2018年9月30日現在)

社名	三菱ロジスネクスト株式会社 (Mitsubishi Logisnext Co., Ltd.)
創立年月日	昭和12年8月4日
資本金	4,890百万円
国内主要事業所	
本社・京都工場	〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1 TEL:075-951-7171 FAX:075-955-3797
滋賀工場	〒523-0013 滋賀県近江八幡市長光寺町578 TEL:0748-37-6700 FAX:0748-37-3259
安土工場	〒521-1334 滋賀県近江八幡市安土町西老蘇8-1 TEL:0748-46-5511 FAX:0748-46-6854
新川崎事業所	〒212-0031 神奈川県川崎市幸区新小倉1-2 TEL:044-330-9000
オンサイト 研修センター	〒345-0023 埼玉県北葛飾郡杉戸町大字本郷576 TEL:0480-37-2108 FAX:0480-33-8034

取締役及び監査役 (2018年9月30日現在)

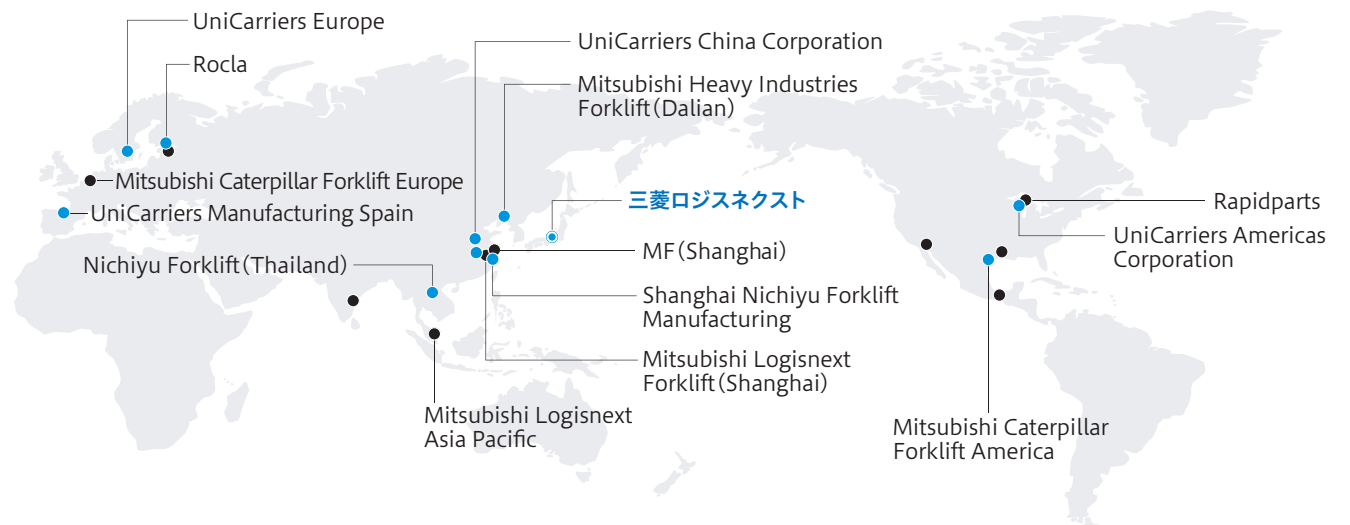
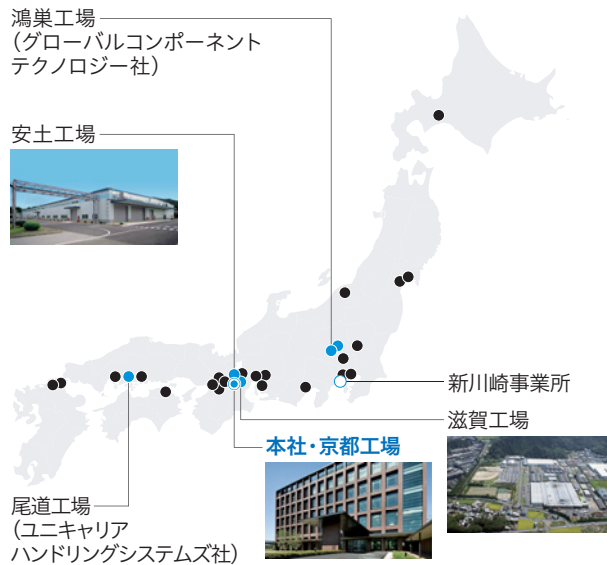
取締役会長	二ノ宮 秀明 (三菱重工フォークリフト&エンジン・ターボ ホールディングス(株) 取締役)
代表取締役社長	御子神 隆 (三菱重工フォークリフト&エンジン・ターボ ホールディングス(株) 取締役)
取締役	各務 真規
取締役	藤田 伸二
取締役	山本 博章 (三菱重工(株) グループ戦略推進室 戦略企画部長)
社外取締役	加藤 孝幸
社外取締役	大河内 健
常勤監査役	前嶋 弘
常勤監査役	小西 憲雄
社外監査役	倉垣 雅英 ((株)ジーエス・ユアサコーポレーション 常務取締役)
社外監査役	福岡 靖之 (大日本塗料(株) 常勤監査役)
社外監査役	斉藤 卓美

会長、社長及び役付執行役員 (2018年9月30日現在)

会長	二ノ宮 秀明
社長 CEO	御子神 隆
副社長執行役員	各務 真規
常務執行役員	新聞 洋之
上席執行役員	新家 雅隆
上席執行役員	間野 裕一
上席執行役員	大野 雅宏
上席執行役員	Ken Barina
上席執行役員	市原 信二
上席執行役員	渡邊 博一
上席執行役員	岩崎 孝宏
上席執行役員	玉光 正和
上席執行役員	小津 泰史
上席執行役員	藤田 伸二

ネットワーク (2018年9月30日現在)

● 生産拠点 ● 主要販売拠点



株式情報 (2018年9月30日現在)

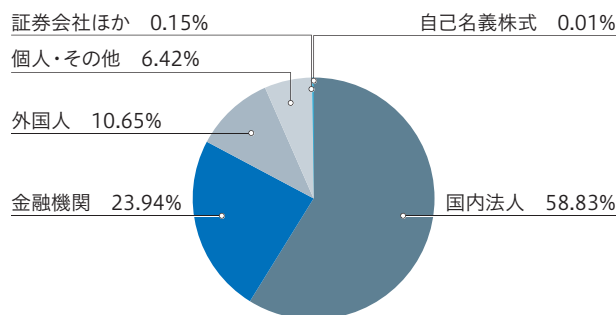
株式の状況

発行可能株式総数	普通株式	392,725,256株
	A種種類株式	32,274,744株
発行済株式総数	普通株式	76,611,269株
	A種種類株式	32,274,744株
株主数	普通株式	3,030名
	A種種類株式	2名

大株主(普通株式)

株主名	持株数(千株)	持株比率
三菱重工フォークリフト&エンジン・ターボホールディングス株式会社	39,033	50.95%
株式会社GSユアサ	4,701	6.14%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	4,097	5.35%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	3,550	4.63%
明治安田生命保険相互会社	2,765	3.61%
GOVERNMENT OF NORWAY	2,244	2.93%
東京海上日動火災保険株式会社	1,424	1.86%
株式会社三菱UFJ銀行	1,363	1.78%
株式会社京都銀行	1,301	1.70%
株式会社滋賀銀行	941	1.23%

所有者別株式分布状況(普通株式)



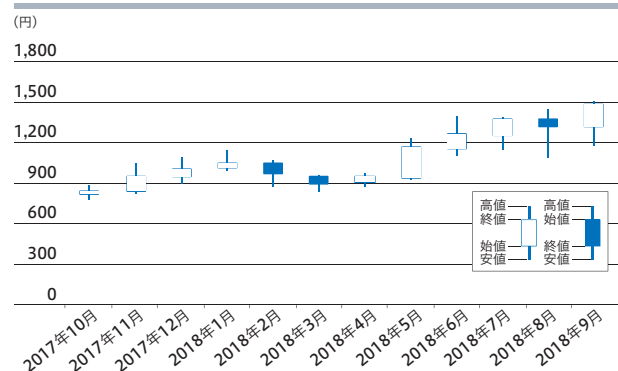
株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)
特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-782-031(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.pronexus.co.jp/koukoku/7105/7105.html (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三井住友信託銀行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株価の推移



ホームページのご案内



株主・投資家情報ページ



最新トピックスをはじめ業績報告や会社情報などを詳しくご案内しております。



トップページ
<https://www.logisnext.com/>



株主・投資家情報
<https://www.logisnext.com/investor/>

三菱ロジスネクスト株式会社

〒617-8585 京都府長岡京市東神足2丁目1番1号
TEL 075-951-7171
FAX 075-955-3797

